



島教協

《すべては「子供たちのために」》

情 報

http://
www.kyougikai.orgE-mail
office@kyougikai.org

〒693-0011 出雲市大津町2214 Tel/Fax:0853(22)7762 代表者 安達利幸 編集人 石原康博

No.603

年頭所感

すべては子どもたちのために

会長 安達利幸

新年明けましておめでとうございます。旧年中に会員の皆様からいただいた組織へのご支援、ご厚情に深く感謝申し上げますとともに、新しい年の門出にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

昨年九月の米国に端を発した金融危機は世界経済の急激な減速を招き、わが国においても急速に景気の悪化を進行させました。マイナス成長予測も出る中、とりわけ輸出に依存する国内の各企業にとつて、非常に厳しい状況の下で平成二十一年を迎えました。

政局に関しても今年は大きな節目の一年になりそうなることを予感させる報道が連日踊っています。共同通信社が一月十日、十一日の両日に行った全国電話世論調査で、麻生内閣の支持率は昨年十二月の前回調査から六ポイント下落し、約十九%となりました。不支持率は森内閣以来約八年ぶりに七十%を超え、各社は一斉に「麻生政権、危機的状況」と論じました。この局面を打開するための解散・総選挙が近いのか、そして政権交代はあり得るのかその成り行きを注意深く見て行く必要があります。言い換えれば、今年はどうなるかがあつても不思議ではない年、丑年だからといって、「ゆつたりのんびり、牛歩の歩みで」などと悠長なことは言っていられそうもない一年になりそうです。

本県の動きに目を転じます。昨春秋、十月一日現在の島根県の推計人口が発表されました。それによると、本県の人口は七十二万五千二百二人で二十三年連続の減少、という結果でした。減少数もこの間最多の六千四百五十人となつています。年少人口、生産年齢人口とも減少している一方、老年人口のみ増加している実態はここ数年ですっかり定着しました。(昨年の老年人口割合は二十八・五%と、これまで以上の加速度で上昇しました。)しまね統計情報データベースではさらに詳しい資料を見ることが出来ますが、年齢別人口構成で五十五歳から五十九歳までと、六十歳から六十四歳までの人口構成が最も多くなつており、その総計は約十一万人です。この方々の層が数年後には一気に老年人口に流れ込むとすれば、老年人口割合はきわめて高くなるのが容易に読み取れます。

だからといって、今現在、そしてこれから将来にわたり、ふるさと島根の活性化が鈍化することを、手をこまねいて眺めている「引き」の姿勢は決して許されません。県民一人ひとりがその努力を惜しまず、地域を興す対策を実行することが求められています。さしずめ私たち教職員は目の前の子どもたちの教育に全身全霊を傾けて教育活動を展開することが重要です。世界遺産登録ブームで沸いた

石見銀山を有する本県ですが、昔から、洋の東西を問わず、最大の資源は「人材」であることは論を待たないからです。

しかし、これだけ激動の世の中を生き抜いて行くには、子どもたちに「生きる力」を身に付ける私たち教師自身が、「たしかな力」を身に付けておく必要があります。ただでさえ教育に向ける社会の視線は厳しいものがあり、また教育再生の取り組みが期待されていることを痛感するのですが、それらを真に実効あるものとするためには、教職員に優れた人材を確保し、頑張る教職員を支援するシステムを構築するよう、私たちのような健全な職員団体が誠意を持つて関係諸機関に要望・交渉・申し入れをしていくことが重要です。これらの真摯な取り組みの積み重ねの上に、教職員定数の改善、現場の負担軽減による子どもと向き合う時間の拡充、メリハリある教員給与体系の構築、優れた教員の確保等がようやく現実のものとなるからです。

また、教育免許更新制の実施、教員評価の徹底や現職研修の充実などの取り組みを通じ「教えるプロ」としての教師の資質向上が求められています。これらについても、教育専門職としてお互いの資質を高めることを、処遇改善と車の両輪で進めてきた島教協としては、なんらそのスタンスを変えることなく、引き続き会員の皆様のニーズにそつて研修活動を展開していくつもりです。どうかこの機会に本会の各種研修会にふるってご参加いただきますよう、お誘い申し上げます。

『平凡な教師は話して聞かせる。よい教師は説明する。優秀な教師はやってみせる。しかし最高の教師は子ども心に火をつける。』(ウィリアム・ウォード)

島教協は、会員の皆様のための組織です。すべての子どもたちの心に暖かなともしびを点けるべく、今年も私たち会員一人ひとりが、スローガンである「すべては子どもたちのために」を胸に刻み、力を合わせ、心一つに努力していこうではありませんか。

末筆ながら、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。



特殊業務手当倍増！

昨年十二月十八日、県教委は次の三点については提示を行った。一点目は、四月一日より**義務教育等教員特別手当**(いわゆる**義務特手当**)が三・八%から三・〇%へ改正される。二点目は、同じく四月一日より**教員特殊業務手当**が倍増となる。三點目は、主幹教諭の任用に伴い特二級を含む給料表の改正である。

他県でも同じような提示がなされているが、香川県ではこの一月から改正、栃木県では特殊業務手当は内容により増額に差があるようである。

十月に出された県人事委員会の「職員の給与等に関する報告及び勧告」の中には、「中央教育審議会答申『今後の教員給与の在り方について』においては、『それぞれの職務に応じてメリハリを付けた教員給与にしていくことが必要』とした上で、**教職調整額や教員に特有の手当等について見直し**の必要性が指摘されており、本年度の文部科学省予算において、義務教育等教員特別手当の縮減や、部活動手当等の拡充が措置されたところである。文部科学省予算における教員給与の見直しは、来年度以降も引き続き行われることとされており、本県においても国の動向を注視するとともに、職務や実績に見合った教育職員の処遇により教育の質の向上を図る観点から、適時適切に改定を行うっていく必要がある。」と述べられている。

教員給与の見直しについては、平成十八年の行政改革推進法と基本方針二〇〇六に記載されている。今回の義務教育等教員特別手当の縮減は、「基本方針二〇〇六に基づく人材確保法による教員給与の優遇措置(二・七六%)の縮減」の第一弾である。平成二十二年一月には、今回三・〇%に引き下げられたものが、二・二%に引き下げられる見通しである。

島教協は、全日教連と連携して教職調整額については、なんとか現在の四%が十二%になるよう訴えていく。

△専従の気になる本▽

最近、書店に行くと「マインドマップ」に関する本をよく見かけるようになりましした。連想する言葉を書き込んで、時折イラストもいれながら、メモをつくっていく感じなのかな。東京の小学校でも授業に取り入れているところがあるそうです。分厚い本は読んでいるうちにくじけそうなので、薄くて、図のいっぱいあるものを買いました。しかし、カラーペンも買わねば・・・。

と、その時みつけたのが「のうだま」。いかにして三日坊主を克服するかというもの。そもそも人間の脳は、飽きっぽく、三日坊主になりやすいらしい。三十分くらいで読めます。やる気を刺激するには四つのスイッチがあるのだそうです。その一つが、「ごほうび」。ごほうびにも、目に見えるものと見えないものがあります。中でも一番効果的なのが「達成感」なんだとか。たしかに。そして、親孝行やボランティアも、人の喜ぶ顔を見たり、人の役にたっていると感じたりすることでごほうびになるのだとか。この二冊、なんとかうまく使いたいなあ。

「できる子はノートがちがう！ 親子ではじめるマインドマップ」

トニー・ブザン (監修) 小学館

「のうだま やる気のコツ」

上大岡トメ、池谷裕二著 幻冬舎

△専従の気になる言葉▽

「学び続ける教師だけが、教える資格を持つ」 野口芳宏



大田市立北三瓶小学校

北三瓶小学校は、三瓶山のふもとにある全校児童29名の小さな学校です。13年前に新築された校舎は中学校と併設。米作りや運動会、文化祭は一緒に活動しています。少人数のため委員会が参加して、みんなの力を合わせてがんばります。来年度は県の研究大会が予定されていて「自ら考え共に生きようとする」児童の育成の時間を研究するところとあります。